



東京文化発信
プロジェクト

PARC Press Release

2013年7月19日
特定非営利活動法人 国際舞台芸術交流センター

Sound Live Tokyo

www.soundlivetokyo.com

サウンド・ライブ・トーキョー
平成25年（2013年）9月21日（土）～10月6日（日）

参加アーティスト

アント・ハンプトン、ティム・エッチェルス、倉地久美夫、マヘル・シャルル・ハシュ・バズ、
クリスティン・スン・キム、飴屋法水、工藤冬里、大工哲弘、アヤルハーン、鈴木昭男、灰野敬二、
松崎順一、小林ラチオ、堀尾寛太 ほか

本プレスリリースに関するお問い合わせ

国際舞台芸術交流センター（PARC） 広報担当：山崎奈玲子（やまざき・なおこ）

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-1-2-3F Tel：03-5724-4660 Fax：03-5724-4661

Mail：yamazaki@parc-jc.org Web：www.parc-jc.org

開催概要

催事名称

日本語：サウンド・ライブ・トーキョー

英語：Sound Live Tokyo

参加アーティスト

アント・ハンプトン & ティム・エッチェルス（英国）

倉地久美夫

マヘル・シャルル・ハシュ・バズ

飴屋法水 × 工藤冬里

クリスティン・スン・キム（米国）

大工哲弘

アヤルハーン（サハ共和国）

鈴木昭男

灰野敬二

松崎順一

小林ラヂオ

堀尾寛太 ほか

会期

平成25年（2013年）9月21日（土）～10月6日（日）

会場

東京文化会館小ホール、東京キネマ倶楽部、上野恩賜公園野外ステージ（旧称・水上音楽堂）、東京都立中央図書館、スーパー・デラックス、VACANT

主催

東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）、国際舞台芸術交流センター（PARC）

後援

ブリティッシュ・カウンシル

協力

東京都立中央図書館、公益財団法人セゾン文化財団、日本口琴協会

サウンド・ライブ・トーキョーとは

これまでに、あらゆる芸術ジャンルが様々な形で音楽と関係を持ってきました。それは多くの場合、音楽への憧れを伴う関係、あるいは音楽の直感に訴える力に依存した関係でしたが、舞台芸術や現代美術をはじめとする諸ジャンルから、非音楽家による音楽のオルタナティブな作り方、鳴らし方が出現してきています。一方で、音楽は前世紀に音そのもの・演奏行為そのものの追求へと舵を切り、楽音でない（と思われる）音も取り入れる一連の作曲運動、ジャズの即興演奏、パンク・ロックのパフォーマンス性、電子音楽の音の匿名性などは、現代芸術の中心に定着しています。

サウンド・ライブ・トーキョーは、この2つの潮流を踏まえ、ライブ・パフォーマンス、インスタレーション、参加型作品などの多彩なプログラムを通して、音と音楽に関わる表現の可能性を探求するフェスティバルです。音の悦びが思考の高まりと一致するような表現を行なうアーティスト、あるいは音が氾濫する現代の都市環境にあつていかに「知性」を獲得するかをまさに音を通して教えてくれるアーティストが集結します。2回目の開催となる今回は、南麻布-原宿-六本木、上野-鶯谷という2つのエリアでプログラムを展開します。

開幕を飾る演目は、ポータブル・シアターの鬼才**アント・ハンプトン**、前回のサウンド・ライブ・トーキョーで好評を得た『ウォール・オブ・サウンド』の**ティム・エッチェルス**による俳優不在の参加型作品『The Quiet Volume』（日本初演）。会場は南麻布・有栖川宮記念公園にある東京都立中央図書館です。「音」を控えるべき図書館という空間で（タイトルは「静かな書物＝音量」を意味しています）、ヘッドホンから聴こえるささやきに導かれ、観客＝参加者は無音の数えきれないページに広がる無限の「知」に思いを馳せることになるでしょう。

その後、先鋭的なプログラムで知られるVACANT（原宿）とスーパー・デラックス（六本木）の企画によるサウンド・ライブ・トーキョー・フリンジが開催されます。普段のプログラム以上に野心的で実験的なラインナップにご期待ください。

10月4日（金）～6日（日）の最後の3日間、このフェスティバルは上野の森周辺を回遊します。

金曜の夜には、菊地成孔氏をして「天才なんだからしょうがない」と言わしめ、1曲ごとにギターのチューニングを変える特異な奏法、特異な歌詞にも関わらず普遍性を持ち胸に迫る歌になっているのがなぜなのか未だ解明されていない異能のシンガーソングライター・**倉地久美夫**と、海外での活躍も目覚ましい音楽家／陶芸家／工藤冬里が演奏機会ごとに「招集」し、アマチュアのメンバーによる「弾き間違い」やたどたどしい演奏が高度な音楽性に結実するのがなぜなのか体験しなければ分からない不定形ユニット、**マヘル・シャルル・ハシュ・バズ**が鶯谷の東京キネマ倶楽部で競演。かつてグランド・キャバレーだったこの会場は独特の雰囲気を持ち、数多くのアーティストを魅了してきました。

週末は、不忍池の畔にある上野恩賜公園野外ステージ（旧称・水上音楽堂）と、開館以来「音楽の殿堂」として戦後の音楽史に大きな足跡を残してきた東京文化会館に舞台を移します。

土曜日は、生まれながらにして聴覚を持たないサウンド・アーティスト、**クリスティン・スン・キム**が初来日し、パフォーマンスを野外ステージにて披露します。音や音声言語がいかに「社会通貨」として大きな機能を持っており、私たちの知覚や生活がいかにそれに規定されているかを、そこから常に疎外され、同時にそこから常に自由でもあった彼女が明らかにするでしょう。今年8月に開始するMOMAでの「Soundings: A Contemporary Score」展でも取り上げられる彼女の作品は、この先急速に重要性を増してゆくと思われる。言葉／音／音楽というそれぞれの次元を繊細に扱い同時に響かせるような演出に定評がある演出家・**鮎屋法水**と、近年演劇に高い関心を寄せ、独自の方法で演劇性を演奏に取り入れている**工藤冬里**は、互いとの共同作業を以前から念願していました。今回東京文化会館でそれが実現します。最も予測不能な2人のアーティストの出会いにご期待ください。

最終日は、青い海に囲まれた亜熱帯の八重山から、永久凍土に覆われたシベリアへとダイナミックに旅をします。東京文化会館では、八重山民謡の第一人者でありつつ、あらゆる「うた」への愛情を込めて歌う姿勢と、琉球・日本の現代史への誠実なアプローチで評価される「大工さん」こと**大工哲弘**のワンマンライブをたっぷりお届けします。そして最後を締めくくるのは、東シベリア・サハ共和国からやって来る驚異のグループ、**アヤルハーン**の野外ステージでのライブです。音階的・音量的に限界のあるはずの口琴という楽器から信じ難い響きを生み出し、民族が混交するサハ共和国の広大な大地を目の前に現前させるかのような演奏は、音楽と「自然」との忘れられた関係を現代の耳に、懐古的にではなく「いまここ」のテーマとして、思い出させてくれるはずです。

サウンド・ライブ・トーキョー ディレクター
丸岡ひろみ（国際舞台芸術交流センター）

『The Quiet Volume』 日本初演!!

ヘッドホンを使った体験型パフォーマンスの最高傑作

図書館独特の静けさの中で、1回に2人の参加者が、ヘッドホンから聴こえるささやきと書物に導かれ体験する俳優不在のパフォーマンス。言わば観客が俳優になり、「読む」という行為の本質をめぐって、知性と感性の冒険が展開します。書物の持つ無限の可能性、「知」を蓄積している図書館という空間のかけがえのなさを実感させてくれる作品です。

『The Quiet Volume』は、平成22年（2010年）にベルリンで、都市の非劇場空間を用いたパフォーマンスに特化したフェスティバル「Ciudades Paralelas」（英語・Parallel Cities）で紹介されて以降、世界17か国29の図書館（7月現在）で上演されている体験型パフォーマンスの傑作です。日本初演の会場は、日本の公立図書館で最大級の180万冊を超える蔵書数を誇り、都心でありながら緑豊かな環境に囲まれた東京都立中央図書館。有栖川宮記念公園の、南麻布の起伏に富んだ地形を生かして作られた渓谷、池、滝、日本庭園やたくさんの木々に囲まれた道を上っていくと、東京都立中央図書館の建物が現れます。この道のりも『The Quiet Volume』の序章として体験していただければ幸いです。



Photo: Lorena Fernandez

会場 東京都立中央図書館

日程 平成25年（2013年）9月21日（土）～10月2日（水）

平日 11:45/12:00/13:15/13:30/14:45/15:00/16:15/16:30/17:45/18:00/19:15/19:30

土日祝日 11:00/11:15/12:30/12:45/14:00/14:15/15:30/15:45

料金 1,800円（ペア）、1,000円（シングル）

※詳細は11ページをご覧ください。

上演時間 約1時間

作家プロフィール



アント・ハンプトン | Ant Hampton (英国)

1988年にシルヴィア・メレクリアーリとプロジェクト「Rotozaza」を立ち上げ、「ゲスト」パフォーマーがリハーサルなしでその場でインストラクションを与えられる作品や、観客自身が状況を作り出しその中でパフォーマーになる体験型作品などの形で「オートシアトロ（自動演劇）」を展開。作品は35か国語以上に翻訳され、各地で紹介されている。他にソロ活動としては、グレッグ・マクラレンとの共同作業による「ライブ・ポートレート」の実験『The Other People (La Otra Gente)』で、非演劇的環境での「出会い」の構造化に取り組んでいる。Manifesta7ビエンナーレにおける「Projected Scenarios」のヘッド・ドラマターグ。ジェローム・ベル、フォースド・エンタテインメントなどの作品にも協力している。

www.anthampton.com



ティム・エッチェルス | Tim Etchells (英国)

英国を拠点とするアーティスト／作家。多様な文脈でのソロ活動のほか、国際的に評価を確立しているパフォーマンス・グループ「フォースド・エンタテインメント」を主宰する。パフォーマンス、映像、写真、テキスト、インスタレーション、小説などの分野で活躍。演劇論『Certain Fragments』（Routledge、1999）、初の小説『The Broken World』（Heinemann、2008）などが出版されている。MACBA（2009）、ヨーテポリ・ビエンナーレ（2009）、アート・シェフィールド（2008）、Manifesta7ビエンナーレ（2008）など各地で展示も行なう。現在ロンドンのテート・リサーチとLADA（Live Art Development Agency）のシンカー・イン・レジデンス。

www.timetchells.com

倉地久美夫 / マヘル・シャルル・ハシュ・バズ

曲ごとにギターチューニングをカスタマイズし特異な物語性を込める異能のシンガーソングライター・倉地久美夫、「弾き間違い」をも豊かで複雑な集団演奏に昇華する不定形にして神出鬼没のマヘル・シャルル・ハシュ・バズによる一夜限りのコンサート。

会場 東京キネマ倶楽部

日程 平成25年（2013年）10月4日（金）20:00開演（19:30開場）

料金 前売2,000円（一般）、前売1,500円（学生）、当日2,500円

※詳細は11ページをご覧ください。

倉地久美夫



Photo: Baku Kato

マヘル・シャルル・ハシュ・バズ



プロフィール

倉地久美夫 | Kumio Kurachi

1964年福岡県生まれ。スプレー画家である父の影響を受けたか、幼少より絵画・漫画を描き始める。母校中学校舎火事の際に打楽器やオルガン等数種を持ち出し、多重録音やライブで音楽製作を行ない始める。1983年に東京へ引越し、舞踏・パフォーマンスの芸術家たちと出会い、多くのイベントに参加。音源デビューは鈴木慶一監修のコンピレーション『ビックリ水族館』（徳間ジャパン、1985年）。1990年帰郷、以降ソロや菊地成孔（sax）、外山明（ds）とのトリオで音源を発表。「どこにもない国の民族音楽」とも評される独自のスタイルを確立。2002年、第2回詩のボクシング全国大会優勝。2011年、ドキュメンタリー映画『庭にお願い』公開。2012年、ギターインストによる新作アナログ版『逆さまの新幹線』（円盤）発表。

ゲスト出演：triola（波多野敦子vn、手島絵里子vla）

www.hirunohikari.com/kurachikumio.html

マヘル・シャルル・ハシュ・バズ | Maher Shalal Hash Baz

音楽家／陶芸家、工藤冬里が招集する不定形ユニット。グループ名は旧約聖書イザヤ書の「分捕り物は速やかに、戦利品は急いで」などと訳されているフレーズから。演奏機会ごとに各地に点在するメンバーが集まり、リハーサルなしのパフォーマンスを行なう。ギターやヴォーカルなどをリズム・セクションが支えるというロックバンドの「ピラミッド型」の編成を批判的に解体し、ロックには滅多に使われないマイナー楽器を多く含む逆ピラミッド型の編成を、その都度数人から数十人規模で実現。数百曲のレパートリーは美しいメロディと開放的かつ堅固な構造を持ち、多くがアマチュアであるメンバーが生み出すミストーンによっても全く損なわれることなく、むしろ豊かさと複雑さを増す。

クリスティン・スン・キム 初来日！

生まれながらにして聴覚を持たないアーティスト、クリスティン・スン・キムは、サウンド・アートへの取り組みを通して自身の「声」を確立しました。「音の所有権」「社会通貨としての音声言語」「サウンド・エチケット」を問う最新型のパフォーマンス。

会場 上野恩賜公園野外ステージ（旧称・水上音楽堂）
日程 平成25年（2013年）10月5日（土）15:00開演（14:30開場）
料金 前売2,000円（一般）、前売1,500円（学生）、当日2,500円
10/5 セット券 前売3,500円
※詳細は11ページをご覧ください。



Photo: Ryan Lash



From Christine Sun Kim, A Selby Film

プロフィール

クリスティン・スン・キム | Christine Sun Kim (米国)

1980年カリフォルニア州オレンジ郡生まれ、現在ニューヨーク在住の韓国系アメリカ人アーティスト。Rochester Institute of Technology、School of Visual Arts修士課程、Bard College Milton Avery Graduate School of the Arts音楽/サウンド部門修士課程修了。生まれながらにして聴覚を持たないが、サウンド・アートに組み込み、「音の所有権」「社会通貨としての音声言語」「サウンド・エチケット」などのテーマにパフォーマンス、インスタレーション、レクチャーを通してアプローチ。2枚組7インチレコード『Panning Fanning』もリリース。ホイットニー美術館にてエデュケーターも務める。ニューヨーク近代美術館（MOMA）で今年8月から11月に開催される「Soundings: A Contemporary Score」展に出品。

www.christinesunkim.com

飴屋法水 × 工藤冬里

状況劇場の音響担当として演劇に関わりはじめ、ミュージシャンとの共演も多く、言葉／音／音楽が等価に響く多層的表現を作り出す演出家・飴屋法水。近年演劇の要素を演奏に取り入れることで音楽性を更新しており、自ら招集するマヘル・シャルル・ハシュ・バズを「劇団としてのバンド」とも呼ぶ音楽家／陶芸家・工藤冬里。互いとの共同作業を念願していた2人がついに邂逅。予測不能のクリエイション／パフォーマンスにご期待ください。

会場 東京文化会館小ホール

日程 平成25年（2013年）10月5日（土）17:30開演（17:00開場）

料金 前売2,000円（一般）、前売1,500円（学生）、当日2,500円

10/5 セット券 前売3,500円

※詳細は11ページをご覧ください。

飴屋法水



Photo: zAk

工藤冬里



Photo: Reiko Kudo

プロフィール

飴屋法水 | Norimizu Ameya

山梨県生まれ、神奈川県立小田原高校卒。17歳で状況劇場に参加。音響を務める。23歳で独立、以降、1980年代は主に、東京グランギニョル、MMMなどにて演劇作品を発表。1990年より、レントゲン芸術研究所を基点に、現代美術に発表の場を移す。1995年、作品制作を止め、様々な動物を飼育販売する「動物堂」を開始。2005年「バングント」展で活動再開。以来、フェスティバル/トーキョー、吾妻橋ダンスクロッシング、HARAJUKU PERFORMANCE +、水と土の芸術祭、国東半島アートプロジェクト等に参加。静岡、いわき、国東半島などでは中学生や高校生と共同作業。また、ミュージシャンとのライブ・パフォーマンスも多く、大友良英、山川冬樹、テニスコーツ、小山田圭吾、七尾旅人、ECD、空間現代、core of bells、中原昌也、MARK等と共演。

工藤冬里 | Tori Kudo

歌伴劇音の類いとしては松山「ナイトシアター・パレス」のトラでピアノを弾いたのが最初（1972）、上京後は新宿ゴールデン街の「ハバナ・ムーン」でピアノを弾いていた時に知り合った「風の旅団」の音楽をしばらく担当（1983）、最近ではモントリオールの劇作家ジェイコブ・ウレンと組んだ『No Double Life for the Wicked』（国際舞台芸術ミーティング in 横浜、2011）、東京文化会館で行なわれたシェフィールドの演出家ティム・エッチェルスの作品『ウォール・オブ・サウンド』（サウンド・ライブ・トーキョー、2012）の音楽監督、自身の演劇行動としては『tori kudo's meltdown』（高円寺、2012）、大久保周辺等における「ひとりデモ」のシリーズ（2012）などがある。

大工哲弘

明るく開放的な響きに過酷な社会的・自然的歴史を映す八重山民謡。その第一人者であり、伝承に深く立脚しつつ県境、国境、ジャンルを超えて活動、今年5月には傑作『ブルーヤイマ』をリリースした「大工さん」こと大工哲弘のワンマンライブ。

会場 東京文化会館小ホール

日程 平成25年（2013年）10月6日（日）15:00開演（14:30開場）

料金 前売2,000円（一般）、前売1,500円（学生）、当日2,500円

10/6 セット券 前売3,500円

※詳細は11ページをご覧ください。



Photo: Adam L Photography

プロフィール

大工哲弘 | Tetsuhiro Daiku

沖縄県八重山郡石垣市字新川出身。八重山地方に伝承される多彩な島唄をこなし、八重山民謡の第一人者として地位を築いている。1999年には沖縄県無形文化財（八重山古典民謡）保持者に指定される。2011年、琉球民謡音楽協会会長に就任。県内外及び海外コンサートにも多く出演、中・東・北欧、米国、中南米、南西アフリカ、東南アジアなどで公演を行い、さらに世界の民族音楽家、ジャズやロックのミュージシャンなどとの共演活動も意欲的に行っている。また八重山民謡教室の支部を全国に持ち、沖縄・八重山民謡の普及・育成にも力をそそぐ。今年5月に新作『ブルーヤイマ』を発表。

www.daiku-tetsuhiro.com

アヤルハーン

サハ共和国で国民的に親しまれている楽器・口琴（ホムス）と伝統唱法を超絶技巧で駆使し、電子音響とも錯覚するような複雑な倍音、動物の鳴き声、足音、環境音の生々しい再現、人々と風物をうたう歌と言葉を通して「自然」を現前させる驚異のグループ。

会場 上野恩賜公園野外ステージ（旧称・水上音楽堂）

日程 平成25年（2013年）10月6日（日）18:00開演（開場17:30）

料金 前売2,000円（一般）、前売1,500円（学生）、当日2,500円

10/6 セット券 前売3,500円

※詳細は11ページをご覧ください。



プロフィール

アヤルハーン | Ayarkhaan（サハ共和国）

東シベリア・サハ共和国の口琴／ヴォイスグループ。グループ名は「創る心」を意味する。リーダーのアリピナ・ジェグチャリョーヴァは、ヤクーツク国立大学（現・北東連邦大学）歴史・言語学部でヤクート（サハ）語・ヤクート（サハ）文学を専攻中にイヴァン・アレクセイエフの口琴アンサンブル「アルグイス（祝福）」のメンバーとなり、1991年にサハで開催された第2回国際口琴大会参加をきっかけに、世界各地で演奏を行なうようになり、2011年の第7回国際口琴大会で9人の「世界口琴名人」の1人に選ばれている。2002年にアヤルハーンを結成。世界各地に様々な形態で存在し、サハでは神が作った楽器とも言われ国民的に親しまれている口琴（ホムス）を超絶技法で駆使。また、消滅しつつあった伝統的歌唱法「d'ieretii yrya」を復興するとともに究める。電子音響とも錯覚するような複雑で豊かな倍音を生み、様々な動物の鳴き声、風や波の音などを生き生きと再現し、音／音楽／歌／言葉が同時に響くパフォーマンスを通して「自然」を現前させる。

サウンド・ライブ・トーキョー・フリンジ

都内のライブハウスなどの企画・運営に携わる団体を対象に企画を公募し、サウンド・ライブ・トーキョー・フリンジとしてご紹介。先鋭的なプログラムで知られる2会場の企画が採用されました。

VACANT 「ラジカセ・メロトロン化計画」

1 BOOMBOX- MELLOTRON PROJECT



<http://vacant.n0idea.com>

1950年代に発表されて以来、ミュージシャンに愛され、数多くの楽曲に使用されてきた楽器「メロトロン」。今回のプロジェクトでは、家電蒐集家・松崎順一（Design Underground）とガジェット開発者の小林ラヂオによる、「テープ音源を再生するオルガン」として開発されたメロトロンを再解釈・構築する「ラジカセ・メロトロン化計画」の制作を行います。キーボードによって複数台のラジカセをコントロールする巨大音楽装置「ラジカセ・メロトロン」の初公開を含めたサウンド・インスタレーションを、アーティスト/エンジニアである堀尾寛太が構成します。ゲストパフォーマーによるラジカセ・メロトロンを「演奏」するスペシャルライブも開催予定です。

会場・企画・制作 VACANT

日程 平成25年（2013年）9月28日（土）、29日（日）

※オープン時間はゲストパフォーマーとスケジュール発表後にウェブサイトで公開

参加アーティスト 松崎順一、小林ラヂオ、堀尾寛太 ほか

料金 前売1,500円（一般）、当日2,000円

※インスタレーションは入場無料

スーパー・デラックス



Photo: AZXY

「まだ巡りあった事のない新しい音楽に出会いたい!」をキーワードに今までの活動キャリア、音楽ジャンルは問わず、全国各地から出演アーティストを公募。選出アーティストには交通費、宿泊費等を保証しエクスペリメンタルミュージック/サウンド・アートの代表的なアーティストと肩を並べ演奏/作品を披露する機会を設け、ベテランと知られざるアーティストによる未だ見ぬ表現が躍動するステージを作り上げます。イベントに遊びにいらっしゃるお客様も我々と同時に未体験のものに触れ、刺激のかつ未来への想像力をかき立てられるような鮮烈な一夜を共に体験したいと思っています。



Super Deluxe

<http://www.super-deluxe.com>

会場・企画・制作 スーパー・デラックス

日程 平成25年（2013年）9月29日（日）18:00開演

ゲスト出演 鈴木昭男、灰野敬二

料金 前売1,500円（一般）、当日2,000円

スケジュール

2013年		9/21	~	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6
会場		SAT	~	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
『The Quiet Volume』	東京都立中央図書館		~		※1							
サウンド・ライブ・トーキョー・フリンジ 「ラジカセ・メロトロン化計画」	VACANT			未定	未定	※ゲストパフォーマーとスケジュール発表後にウェブサイト等で公開						
サウンド・ライブ・トーキョー・フリンジ スーパー・デラックス	スーパー・デラックス				18:00							
倉地久美夫/ マヘル・シャルル・ハシュ・バス	東京キネマ倶楽部								20:00			
クリスティン・スン・キム	上野恩賜公園野外ステージ (旧称・水上音楽堂)										15:00	
船屋法水×工藤冬里	東京文化会館										17:30	
大工哲弘	東京文化会館											15:00
アヤルハーン	上野恩賜公園野外ステージ (旧称・水上音楽堂)											18:00

開場は各公演開演の30分前(The Quiet Volume、サウンド・ライブ・トーキョー・フリンジを除く)

※1 タイムテーブル(詳細はウェブサイトをご覧ください)

平日 11:45/12:00/13:15/13:30/14:45/15:00/16:15/16:30/17:45/18:00/19:15/19:30
土日祝日 11:00/11:15/12:30/12:45/14:00/14:15/15:30/15:45

チケット

料金

	ペア	シングル	当日
The Quiet Volume	¥1,800	¥1,000	前売と同じ

	前売一般	前売学生	当日
倉地久美夫/マヘル・シャルル・ハシュ・バス	¥2,000	¥1,500	¥2,500
船屋法水×工藤冬里	¥2,000	¥1,500	¥2,500
クリスティン・スン・キム	¥2,000	¥1,500	¥2,500
大工哲弘	¥2,000	¥1,500	¥2,500
アヤルハーン	¥2,000	¥1,500	¥2,500
10/5 通し券 (船屋法水×工藤冬里+クリスティン・スン・キム)	¥3,500		
10/6 通し券 (大工哲弘+アヤルハーン)	¥3,500		
ラジカセ・メロトロン化計画	¥1,500		¥2,000
スーパー・デラックス企画	¥1,500		¥2,000

The Quiet Volumeは、上演時間約1時間。2人1組で体験する作品ですので、ペアでのお申し込みをお勧めします。回数に限りがありますので、事前のご予約をお勧めします。当日券情報はウェブサイトでご告知します。

チケット発売

平成25年(2013年)8月3日(土)10:00

(但し、「ラジカセ・メロトロン計画」のみ未定)

チケット取り扱い

国際舞台芸術交流センター www.soundlivetokyo.com

イープラス eplus.jp

東京文化会館チケットサービス Tel 03-5685-0650 (10:00~19:00、休館日休業)

※各プログラムによって取り扱いが異なりますが、国際舞台芸術交流センターでは全て取り扱っています。詳細はサウンド・ライブ・トーキョーウェブサイトをご覧ください。

会場

東京文化会館小ホール

東京都台東区上野公園5-45

☎03-3828-2111

東京都立中央図書館

東京都港区南麻布5-7-13 (有栖川宮記念公園内)

☎03-3442-8451 (代)

東京キネマ倶楽部

東京都台東区根岸1-1-14

☎03-3874-7988

スーパー・デラックス

東京都港区西麻布3-1-25 B1F

☎03-5412-0515

上野恩賜公園野外ステージ (旧称: 水上音楽堂)

東京都台東区上野公園2-1

☎03-3828-9168

VACANT

東京都渋谷区神宮前3-20-13

☎03-6459-2962

昨年の掲載記事より

intoxicate、vol.100、平成24年10月10日

「渡る世間はフェスばかりだが、ここに集まる出演者を一望するだけで、本イベントの特異な試み、音にまつわる知性とユーモア、思いもよらぬ逸脱と野蛮の企てを伺い知ることができる」

ele-king、www.ele-king.net、平成24年10月18日

「先鋭的な表現活動を重ねてきた面々が多く並び、演奏のみならず展示や映画上映など、音楽から広くアートへとつながる地点でどのような音が鳴らされるのか楽しみだ」

サウンド・ライブ・トーキョーfacebookページ/Twitter

【Facebookページ】

<https://www.facebook.com/soundlivetokyo>

【Twitter】

<https://twitter.com/soundlivetokyo>

@soundlivetokyo



Tokyo Creative Weeks

それは、都内各地で催される芸術文化が満載の5週間。伝統芸能から現代アートにいたるまで、多彩な文化が一挙に集結。tcw2013.jp
※東京クリエイティブ・ウィークスは、東京都及び東京文化発信プロジェクト室が実施します。

東京文化発信プロジェクトは、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。都内各地での文化創造拠点の形成や子供・青少年への創造体験の機会の提供により、多くの人々が新たな文化の創造に主体的に関わる環境を整えたとともに、国際フェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信していきます。www.bh-project.jp/